

# 一般質問

# 市民の声を代表して 22人が質問

議員は、市長などに対して、市の仕事の状況や将来の方針などを質問することができます。これを「市政に関する一般質問」と呼んでいます。  
今回の定例会では、22人の議員が市民の皆さんを代表して一般質問をしました。どのような質問と答弁のやり取りがあったのか、ご紹介していきます。

## 風水害と放射能

市村 達明 議員

**問** 本年度の地域防災計画は大震災の影響を盛り込んだ内容と聞いているが、どのような点に留意して作成したのか。

**総務部長** 震災当時、最も力を入れなければならぬのは、市民の力、地域の力であると感じた。これらを具体化したのがこの防災計画である。

**問** 地域防災計画の中に竜巻についての対応が入っていないがなぜか。

**答** 竜巻は風水害対策の一つとして考えている。竜巻に限らず、市民には様々な情報伝達手段を使ってお知らせをしていきたい。また、災害時に対応できるような職員の体制も整えている。

**問** 放射能対策について、除染計画の直近の予定と進捗状況、除染の方法は。

**まちづくり振興部長** 早急に調査委託の発注準備に入る。国に申請を行い、7月には工事発注をしたい。最初には線量の高い小中学校を先行して発注したい。

除染方法は、学校の校舎を含めた敷地内全体を行うが、子どもの遊び場である校庭を先行して行う。校庭の表土や除去した物は袋詰

めにして埋設し保管する。

**問** 通学路等から除去された物を公園等で保管する場合は近隣住民への周知は。

**答** 当然表示もするし、周辺住民に説明も行う。

## 災害に強いまちづくり

阿部 洋子 議員

**問** 急傾斜地対策に有効な全天候フォレストベンチ工法は、斜面を階段状につくり変え、森を再生する技術であり斜面の安定を高める工法である。安価でメンテナンスも必要ない優れた工法なので、今後、急傾斜地を整備する所有者に紹介や勉強会を行ってはどうか。

**建設部長** 新しい工法を取り入れる場合に勉強会等は行っているのですが、この工法だけの勉強会を行うつもりはない。

**問** 学校耐震化100%達成に向けて。現時点では全国平均、県平均よりも低い数値であるが所見を伺う。

**教育委員長** 震度6強の地震で倒壊の危険性が高いIS値0.3未満の建物は、耐震化工事が完了。平成23年度からは、耐震補強工事を中心に小中学校の耐震化率100%達成を最優先施

策として進めている。

**問** 学校は、子どもの命を守ることもに地域の防災拠点でもある。学校施設の天井、照明器具などの非構造部材の耐震対策について安全点検の実施は。

**教育部長** 学校の教頭先生を中心に月1回程度、文科省の非構造部材の耐震化ガイドブックを参考にチェックをしている。修理が必要と判断されたものは教育委員会に連絡し、現地を再度確認して修繕をしている。



耐震化工事中の藤代小学校

## 放射能除染に 光合成細菌の活用を！

平 由子 議員

**問** 光合成細菌は人類の生存に欠かすことのできない生物と判明。例えば、稲の穂が出ないときなどに光合

成細菌を使えばそれを自由に操ることができ、豊作にすることができると。昔、光合成細菌を培養していた方が培養水槽にラジウムを入れたら、水槽内の光合成細菌がラジウムを食べるために集まってきた。また、2011年11月6日の東京新聞に、1979年スリールマイル島原発事故後、原子炉内にミドリムシが大量繁殖と掲載。ミドリムシは放射能を食べて増殖していく。人類にとって有効な菌はいる。EM菌も乳酸菌も一緒。市の汚染対策も放射能を移すのではなく、減らさなくてはならない。後に続く若者のために希望を植えていくことが先人のやるべきこと。

**市長** EM菌等が放射線量を下げる実例があると言われていることを理屈の面で受け止め切れない。いろいろ試すのは大事だが、理屈がわからなければ行政としては入っていきにくい。まちづくり振興部長 広島国際学院大学のレポートによると、光合成細菌でセシウムの吸着ができた。しかし、私どもでやろうとすると、ろ過したセシウム濃度が濃くなり、扱いに困る。また、有用微生物群による元素転換ができたとして何の物質ができるかわからない。研究を待つ。